

Wireless PC Card

無線LAN PCカード

LD-WL11/PCCS

必ずお読みください	P1~13
セットアッププログラムの実行	P14~16
取り付け	P17~20
Windows XPでのセットアップ	P22~30
Windows Me/98でのセットアップ	P31~33
ピア・ツー・ピアでの設定	P34~40
Windows 2000でのセットアップ	P41~48
無線LAN設定 (Windows XP)	P49~51
無線LAN設定 (他のOS)	P49・52~55
必要に応じてお読みください	P56~79



User's Manual

無線LAN PCカード

LD-WL 11/PCCS

User's Manual

ユーザーズマニュアル

■ はじめに ■

この度は、弊社ラニードの無線LAN PCカード“LD-WL 11/PCCS”をお買い上げいただき誠にありがとうございます。このマニュアルには、“LD-WL 11/PCCS”をコンピュータに導入するにあたっての手順が説明されています。また、お客様に“LD-WL 11/PCCS”を安全に扱っていただくための注意事項が記載されています。導入作業を始める前に、必ずこのマニュアルをお読みにになり、安全に導入作業をおこなって製品を使用するようにしてください。なお、このマニュアルでは一部の表記を除いて“LD-WL 11/PCCS”を「本製品」と表記しています。

このマニュアルは、製品の導入後も大切に保管しておいてください。

ご注意

- 本製品の仕様および価格は、製品の改良等により予告なしに変更する場合があります。
- このマニュアルの著作権は、エレコム株式会社が所有しています。
- このマニュアルの内容の一部または全部を無断で複製/転載することを禁止させていただきます。
- このマニュアルの内容に関しては、製品の改良のため予告なしに変更する場合があります。
- このマニュアルの内容に関しましては、万全を期しておりますが、万一ご不審な点がございましたら、弊社ラニード・サポートセンターまでご連絡ください。
- 本製品のうち、戦略物資または役務に該当するものの輸出にあたっては、外国為替法に基づく輸出または役務取引許可が必要です。
- 本製品は日本国内での使用を前提に製造されています。日本国外での使用による結果について弊社は一切の責任を負いません。また、本製品について海外での保守、サポートはおこなっておりません。
- Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。そのほか、このマニュアルに掲載されている商品名/社名などは、一般に各社の商標ならびに登録商標です。本文中における®および™は省略させていただきました。

●このマニュアルで使われている記号1

記号	意味
	作業上および操作上で特に注意していただきたいことを説明しています。この注意事項を守らないと、けがや故障、火災などの原因になることがあります。注意してください。
	説明の補足事項や知っておくと便利なことを説明しています。
	キーボード上のキーを表わします。

安全にお使いいただくために

Laneed

けがや故障、火災などを防ぐために、ここで説明している注意事項を必ずお読みください。

 警告	この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などによる死亡や大けがなど人身事故の原因になります。
 注意	この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり、他の機器に損害を与えたりすることがあります。

警告

 本製品の取り付け、取りはずしのときは、必ずコンピュータ本体および周辺機器メーカーの注意事項に従ってください。

注意

 本製品の分解、改造、修理をご自分でおこなわないでください。
火災や感電、故障の原因になります。また、故障時の保証の対象外となります。

 本製品および本製品を取り付けたコンピュータ本体を、水を使う場所や湿気の多いところで使用しないでください。
火災や感電、故障の原因になります。

 本製品および本製品を取り付けたコンピュータ本体を次のようなところで使用しないでください。

- ・高温または多湿なところ、結露を起こすようなところ
- ・直射日光のあたるところ
- ・平坦でないところ、土台が安定していないところ、振動の発生するところ
- ・静電気の発生するところ、火気の周辺

導入の手順フロー

Laneed

Windows XPの場合

Windows Me/98の場合

パッケージの内容を確認します。➔P6

作業の前に注意事項をお読みください。➔P2・7~13

セットアップに必要なプログラムをインストールします。➔P14~

本製品をPCカードスロットに接続します。➔P17~

プラグ&プレイ機能により、本製品が検出されます。

メッセージに従いドライバをインストールします。
➔P22~

メッセージに従いドライバをインストールします。
➔P31~
*Windows 98の場合、Windows CD-ROMが必要なことがあります。

Windows XPのワイヤレス ネットワーク接続を使用して無線LANの設定をします。➔P50~

ご使用の環境に合わせて、サービス、プロトコルなどのネットワーク設定をおこないます。➔P34~*

ご使用の環境に合わせて、サービス、プロトコルなどのネットワーク設定をおこないます。➔P24~*

設定ユーティリティで必要事項を設定し、動作確認をします。
基本設定と動作確認➔P52~
その他の詳細設定➔P56~

*この内容は設定例です。実際にご使用になるネットワーク環境に合わせて設定してください。

導入後は、ユーザ登録(➔P7参照)をおこなってください。

Windows 2000の場合

パッケージの内容を確認します。➡P6

作業の前に注意事項をお読みください。➡P2・7~13

セットアップに必要なプログラムをインストールします。
➡P14~

本製品をPCカードスロットに取り付けます。
➡P17~

プラグ&プレイ機能により、本製品が検出されます。

メッセージに従いドライバをインストールします。
➡P41~

ご使用の環境に合わせて、サービス、プロトコルなどの
ネットワーク設定をおこないます。
➡P42~※

ほかのコンピュータからアクセスできるようにユーザー
アカウントを登録します。➡P47~※

設定ユーティリティで必要事項を設定し、動作確認を
します。
基本設定と動作確認 ➡P52~
その他の詳細設定 ➡P56~

※この内容は設定例です。実際にご使用になるネットワーク環境に合わせて設定してください。

導入後は、ユーザ登録(➡P7参照)をおこなってください。

もくじ

はじめに	1
安全にお使いいただくために	2
導入の手順フロー	3
もくじ	5

1. パッケージ内容の確認	6	11. Windows 2000での セットアップ	41
2. 製品の保証とユーザ登録	7	・ドライバのインストール	41
3. 本製品の概要について	8	・ネットワークの設定例	42
・本製品の特長	8	・ユーザアクセス権の設定	47
・本製品の動作環境	9	・フォルダなどの共有設定	48
・各部の名称とはたらき	10	12. 無線LANの設定	49
4. 無線LANの基礎知識	11	・接続作業の前に	49
5. 本製品を使用するにあたっての 注意事項	13	・Windows XPでの 無線LAN設定	50
6. セットアッププログラムの実行	14	・Windows XP以外の OSでの無線LAN設定	52
7. 本製品の取り付け/取りはずし	17	13. 各タブのリファレンス	56
・取り付け前に確認する	17	・モニター タブ	56
・取り付けの方法	18	・詳細設定 タブ	60
・取りはずしの方法	20	・バージョン情報 タブ	61
8. Windows XPでの セットアップ	22	・WEPの設定 (暗号化タブの設定)	62
・ドライバのインストール	22	14. こんなときは	70
・サービスとプロトコルの確認	24	15. サポートサービスについて	77
・ネットワークの設定例	27	16. 基本仕様	79
・共有フォルダの設定	29		
9. Windows Me/98での セットアップ	31		
10. ピア・ツー・ピアでの設定	34		

1 パッケージ内容の確認

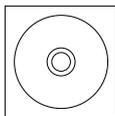
Laneed

本製品のパッケージには次のものが入っています。作業を始める前に、すべての商品が揃っているか確かめてください。なお、梱包には万全を期しておりますが、万一不足品、破損品などがありましたら、すぐにお買い上げの販売店または弊社ラニード・サポートセンターまでご連絡ください。

●11 Mbps無線LAN PCカード LD-WL11/PCCS



●ドライブディスク (CD-ROM 1枚)



●ユーザズマニュアル 1冊 (このマニュアルです)



●ユーザ登録カード 1枚



●保証書 1枚



2 製品の保証とユーザ登録

Laneed

製品の保証とサービス

本製品には保証書が付いています。内容をお確かめの上、大切に保管してください。

●保証期間

保証期間はお買い上げの日より1年間です。保証期間を過ぎても修理は有料になります。詳細については保証書をご覧ください。保証期間中のサービスについてのご相談は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

●保証範囲

次のような場合は、弊社は保証の責任を負いかねますので、ご注意ください。
・ 弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障
・ 本製品をお使いになって生じたデータの消失、または破損
・ 本製品をお使いになって生じたいかなる結果および、直接的、間接的なシステム、機器およびその他の異常

●修理の依頼

77ページ「修理の依頼」をお読みください。

●その他のご質問などに関して

77ページ「15.サポートサービスについて」をお読みください。

ユーザ登録

製品の導入が完了したらユーザ登録をおこなってください。お客様のユーザ登録は、インターネットからのオンライン登録または付属のハガキで登録することができます。

●オンラインでの登録(弊社ホームページから登録が可能です)

トップページ左にある「ユーザ登録」からアクセスしてください。

ホームページアドレス：<http://www.elecom.co.jp>

●付属のユーザ登録カードでの登録

必要事項をご記入の上、ご投函ください。品番とシリアル・ナンバーは控えておいてください。裏面のアンケートにもお答えください。ご意見は、今後の製品開発などに役立てていきます。

3 本製品の概要について

Laneed

本製品の特長

●11Mbpsの高速通信と高い拡張性

IEEE802.11b準拠、10BASE-Tよりも高速な11Mbpsの通信速度です。無線LANカードだけを使用して通信するアドホック・モードと、アクセスポイントを使用するインフラストラクチャ・モードに対応します。

●ノイズに強いスペクトラム拡散方式(DS-SS)を採用

通信方式にはスペクトラム拡散方式を採用しています。この方式は、特定の周波数成分がノイズで通信できなくても、別の周波数成分を使って通信することができるノイズに強い通信方式です。

●ESS IDやWEPによるセキュリティ機能

特定のグループを設定するESS ID機能をはじめ、アクセスポイントを使用する場合は、登録されたMACアドレスを持つ無線LANカードとだけ通信することができる「MACアドレスフィルタリング」にも対応します。さらに、データそのものをWEPにより暗号化することで、第三者に盗聴されてもそのままではデータを見ることができないようにすることが可能です。WEPは40ビット互換の64ビットと128ビットに対応します。

●14chの多チャンネル切替

14chの中から使用するチャンネルを選択できます。ワークグループをチャンネルごとに区別することで、不要なデータ送受信を減らすことができます。これにより、トラフィックが軽減されスループットを向上することができます。

●導入しやすい簡単設定ユーティリティ

通信モードの設定、セキュリティ情報の設定などができる設定ユーティリティを添付しています。高度な知識がなくても、簡単に設定できるようになっています。

●プラグ&プレイでインストールも簡単

本製品を接続後、コンピュータ本体の電源をONにすると、自動的にドライバインストールのウィザードが起動します。設定ユーティリティのインストール時に情報ファイルを登録済みなので、従来よりもさらに簡単にインストールできます。

※Windows 98ではOSのCD-ROMが必要ことがあります。

●コンピュータの電源がONのまま取りはずしが可能

ホットプラグに対応しますので、コンピュータ本体の電源を入れたままで本製品を抜き差しできます。必要なときだけ本製品を取り付けてネットワークに接続することができます。コンピュータ本体の電源を入れたままでの複数回の抜き差しも可能です。

※ネットワーク設定によっては、起動時に必ず接続しておく必要があります。

本製品の動作環境



本製品は3.3V専用ですのでご注意ください

本製品の電源は3.3V専用です。5V専用のPCカードスロットでは使用できません。間違って5V専用のPCカードスロットに差し込むと本製品およびコンピュータを破損する恐れがありますのでご注意ください。

本製品は次の動作環境に対応しています。

対応機種	PC/AT互換機(DOS/Vマシン)およびNEC PC98-NXシリーズで3.3V対応のPCMCIA TYPE II スロットを持つ機種(自作機は除く)
対応OS	Windows XP, Windows Me, Windows 98, Windows 2000

※最新の動作環境は弊社ホームページ(<http://www.elecom.co.jp>)をご覧ください。

※Windows 95での動作は保証していません。

各部の名称とはたらき



①	Linkランプ	インフラストラクチャ・モードではアクセスポイントまたは無線ルータと接続できている場合に点灯します。アドホック・モードの場合は無線LANアダプタと接続できている場合に点灯します。接続先が見つからない場合は一定間隔で点滅します。
②	Powerランプ	PCカードスロットから電源が供給されているときに点灯します。
③	68ピンコネクタ	コンピュータのPCMCIA Type II 対応のPCカードスロットへ差し込むコネクタです。コネクタを指で触れないように注意してください。

4 無線LANの基礎知識

Laneed

本製品を使った無線LANの基本的なことについて説明します。

無線LANの2つの通信モード

無線LANには2つの通信モードがあります。ひとつは、無線LANアダプタだけでネットワークを構成する「アドホック・モード」です。無線LANアダプタを取り付けたパソコン同士が直接電波をやり取りしてデータを交換できます。もうひとつのモードは、「アクセスポイント」と呼ばれる中継装置を使ってデータをやり取りする「インフラストラクチャ・モード」です。

●アドホック・モード(AdHoc Mode)

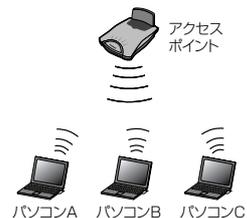
パソコン同士が直接電波をやり取りします。ノートパソコン数台だけでデータのやり取りをするのに適しています。各パソコンは対等の扱いになるピア・ツー・ピア接続になります。



●インフラストラクチャ・モード(Infrastructure Mode)

アクセスポイントを経由してパソコン同士を接続します。アクセスポイントにあるLANポートを使うことで有線LANと接続することができます。有線LAN上にルータがある場合は、アクセスポイントを経由して無線LANの各パソコンからもインターネットに接続できます。

また、弊社のアクセスポイントの場合、複数のアクセスポイントを設置することで、通信エリアを拡大できるだけでなく、ネットワークに接続したまま移動したときに、自動的に電波状態のよいアクセスポイントに切り替わるマルチチャンネル・ローミング機能が利用できます。



無線LANのセキュリティ機能

無線LANは電波でデータを送受信するので、知らない間にネットワークに不正アクセスされたり、電波を盗聴される可能性があります。そこで、無線LANカードおよびアクセスポイントには不正アクセスや盗聴を防止するためのセキュリティ機能を備えています。

●ESS ID(Extended Service Set ID)

隣接した場所でも同じ製品または同じ帯域を利用する無線LANがあると、無線を使ってやり取りしているデータが混信する恐れがあります。そこで他のネットワークと自分たちのネットワークを区別するためにESS IDと呼ばれる無線LANのグループ名称を決めることができます。同じ無線LANのグループに所属するコンピュータは同じESS IDを設定することで、他のESS IDを持った無線LANグループとは区別され、混信や不正アクセスなどを防ぐことができます。

●MACアドレスフィルタリング

ネットワークアダプタには、世界中に同じ番号が存在しない「MACアドレス」と呼ばれる固有の番号が割り当てられています。そこでアクセスポイントに無線LANアダプタのMACアドレスを登録することで、そのMACアドレスを持つ無線LANアダプタから無線LANへのアクセスの許可/不許可を設定することができます。MACアドレスは製品の裏ラベルなどに記載されています。

●WEP(Wired Equivalent Privacy)

ESS IDやMACアドレスフィルタリングは、不正アクセスを防止するための機能ですが、それだけでは特殊な装置を持った第三者に意図的に盗聴される恐れがあります。弊社製品ではさらにセキュリティを高めるために、WEPという機能を利用できます。WEPはデータを暗号化する機能で、暗号の元になるキーワードまたは40～128ビットの数値をキーとして暗号に利用します。同じネットワークの利用者だけに暗号を知らせることで、たとえ第三者が電波を盗聴してもデータを解読することができなくなります。

5 本製品を使用するにあたっての注意事項

本製品の導入にあたっての注意事項と、導入後に使用するにあたっての注意事項を説明します。必ずこの項目をお読みになり、本製品を正しくお使いください。

●Windowsオペレーションディスクが必要な場合があります

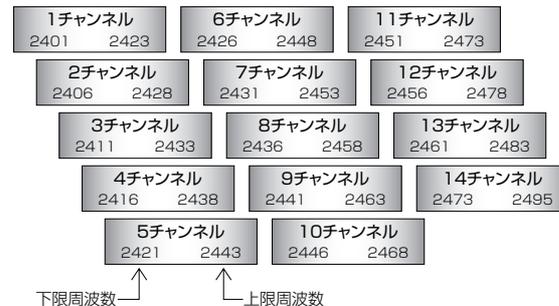
ご使用のOSおよび環境によっては、WindowsオペレーションシステムのCD-ROMが必要な場合があります。しかし、PCカードスロットがひとつしかない場合、本製品を取り付けるとCD-ROMドライブが使用できません。このような場合は76ページ「PCカードスロットがひとつしかない場合」をお読みください。

●ホットプラグ(活線挿抜)について

本製品は「ホットプラグ(活線挿抜)」に対応しています。Windows XP/Me/98/2000などカードスロット用のドライバが「ホットプラグ」に対応したコンピュータでは電源を入れたまま本製品を抜き差しできます。ただし、取りはずすときに必要な操作があります。20ページ「取りはずしの方法」をお読みになり、正しい手順で取りはずしてください。

●同時に使用可能なチャンネルについて

同時使用するチャンネルの周波数が一部でも重なっていると、混信により正常に通信できなくなります。以下の表の帯域一覧を参考に、同時に使用するチャンネルの周波数が重ならないように、チャンネルを選択してください。



6 セットアッププログラムの実行

Laneed

本製品に付属のCD-ROMからセットアッププログラムを実行すると、無線LANの設定ユーティリティと同時にドライバのインストールに必要な情報ファイルがインストールされます。本製品を取り付ける前に、必ずセットアッププログラムを実行してください。なお、説明の画面には、Windows XPを使用しています。

MEMO Windows XPをご利用の場合

Windows XPでは無線LAN設定を付属の設定ユーティリティではなく、Windows XP標準のワイヤレス設定でおこないます。そのためセットアッププログラムを実行しても設定ユーティリティはインストールされませんが、ドライバのインストールに必要な情報ファイルがインストールされますので、必ずセットアッププログラムを実行してください。

1 付属のCD-ROMをCD-ROMドライブに入れます。

2 マイコンピュータなどを使ってCD-ROMディスクの内容を表示します。[PCCS]フォルダにあるsetup(.exe)をダブルクリックします。



Setup.exe

注意 本製品に付属のCD-ROMは他の無線LAN製品と共通のディスクです。[PCCS]フォルダ以外にもsetup(.exe)ファイルが含まれていますが、必ず[PCCS]フォルダ内にあるsetup(.exe)を実行してください。

3 インストール先を指定します。通常はそのまま変更する必要はありませんので、[次へ] ボタンをクリックします。



インストール先を変更したい場合は、ここをクリックしてインストール先を指定します。

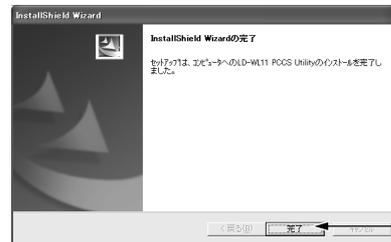
クリック

4 プログラムフォルダ名を指定します。通常はそのまま変更する必要はありませんので、[次へ] ボタンをクリックします。



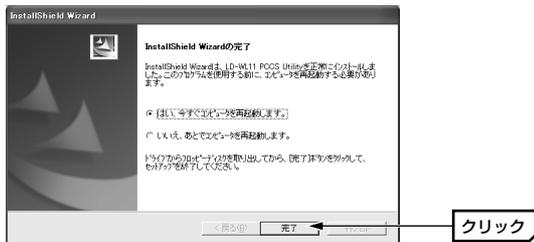
クリック

5 <InstallShieldウィザード完了> 画面が表示されれば、[完了] ボタンをクリックします。



クリック

7 再起動を促す画面に変わりますので、**完了** ボタンをクリックします。



8 コンピュータが再起動します。CD-ROMドライブからCD-ROMを取り出します。

これでインストールは完了です。このあとは、ご使用のOSに合わせドライバをインストールします。

MEMO

アンインストールするときは

[スタート]→[(すべての)プログラム]→[LD-WL11 PCCS Utility]にあるアンインストールプログラムを実行してアンインストールします。

なお、アンインストールを実行すると設定ユーティリティだけで本製品の<ドライバもアンインストールされますのでご注意ください。>

7 本製品の取り付け/取りはずし

Lanet

本製品の接続方法について説明します。本製品はホットプラグ機能に対応しますので、コンピュータ本体の電源を入れたまま接続することもできます。PCカードの取り付け/取りはずし方法は、本体の機種によって異なりますので、お手持ちのコンピュータ本体やカードスロットのマニュアルの該当ページも参考にご覧ください。



注意 はじめて本製品を接続する前にセットアッププログラムを実行しておいてください。

本製品をはじめて取り付けの前に、セットアッププログラムを実行しないと、ドライバが正常にインストールされません。

取り付け前に確認する

ご使用になるコンピュータのPCカードスロットが正常に動作しているかを確認します。

1 デバイスマネージャを表示します。

●Windows XPの場合

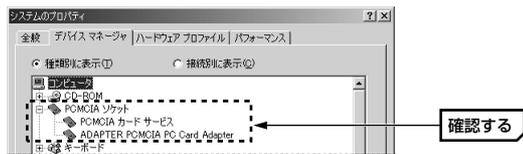
- ① [スタート]をクリックし、[マイコンピュータ]にカーソルを合わせます。
- ② マウスを右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]を選択します。
- ③ 【ハードウェア】タブを選択し、**デバイスマネージャ** ボタンをクリックします。

●Windows Me/98/2000の場合

- ① デスクトップの[マイコンピュータ]にカーソルを合わせます。
- ② マウスを右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]を選択します。
- ③ Windows Me/98では<システムのプロパティ>画面が表示されます。
【デバイスマネージャ】タブを選択します。
Windows 2000では【ハードウェア】タブを選択し、**デバイスマネージャ** ボタンをクリックします。

- 2** 「PCMCIAソケット(XPIはアダプタ)」の **[+]** をクリックし、PCMCIAソケットの内容を表示します。(!)や(×)のマークがコントローラに付いていないことを確認します。

Windows Meの画面例



※画面は一例です。表示されるコントローラの名称はお使いのコンピュータによって異なります。

注意 (!)や(×)のマークがコントローラ名に付いている場合は、PCカードスロットが正常に動作していません。コンピュータ本体のマニュアルをお読みになり正しく動作するように設定してください。

- 3** 正常に動作していることを確認できれば、**[OK]** ボタンをクリックします。

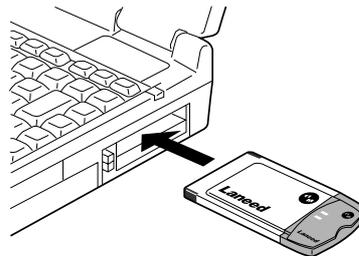
取り付けの方法

- !** 必ずコンピュータ本体やカードスロットのマニュアルも併せて読みながら、取り付けてください。
- !** 本製品の取り付けを始める前に、必ず金属に触れて身体の静電気を取り除いてください。

- 1** コンピュータ本体の電源が切れていることを確認します。

・本製品はWindowsの「ホットプラグ(活線挿抜)」に対応していますので、コンピュータの電源を入れたまま本製品を差し込むこともできます。

- 2** コンピュータのPCカードスロットに、本製品の68ピンコネクタを差し込みます。



・表裏を間違えないように注意してください。

! カードを差し込むとき、表裏を間違えると本製品のコネクタやコンピュータ側のコネクタを破損する恐れがあります。無理に差し込まないように注意してください。

- 3** 新しいハードウェアを見つけたことを知らせるメッセージが表示されます。

このあとは、ご使用のOSに合わせてドライバをインストールします。

Windows XP ➡ 22ページへ Windows Me ➡ 31ページへ
Windows 98 ➡ 31ページへ Windows 2000 ➡ 41ページへ

取りはずしの方法

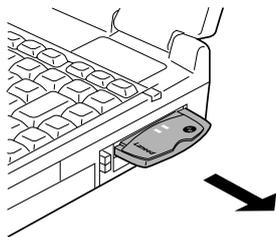
コンピュータのPCカードから本製品をイジェクトする方法は、コンピュータ本体によって異なりますので、コンピュータ本体のマニュアルの「PCカードスロット」に関するページを参照してください。なお、Windowsのホットプラグ機能を利用して、コンピュータの電源を入れたまま、本製品を取りはずすときはPCMCIAソケットから切り離すための操作をおこなう必要があります。

! 必ずコンピュータ本体やカードスロットのマニュアルも参照しながら取りはずしてください。

! 本製品の取りはずすときは、必ず金属に触れて身体の静電気を取り除いてください。

コンピュータ本体の電源が切れた状態での取りはずし

コンピュータ本体のマニュアルの説明に従って、PCカードスロットから本製品を取りはずしてください。



コンピュータ本体の電源が入った状態での取りはずし

1 Windows画面の右下にあるタスクトレイの  をダブルクリックします。



・OSの種類によってアイコンのデザインが多少異なります。PCカードのアイコンをダブルクリックしてください。

2 「Air@Hawk/LD-WL11/PCCS」を選択し、**停止** ボタンをクリックします。



・ご使用のコンピュータにより、表示されるソケット数などの内容が異なります。

3 取りはずし可能のメッセージが表示されます。**OK** ボタンをクリックします。

・このあとは、コンピュータ本体のマニュアルの説明に従って、PCカードスロットから本製品を取りはずしてください。

8 Windows XPでのセットアップ

Lanet

本製品をはじめて使用するときはドライバのインストール作業が必要です。

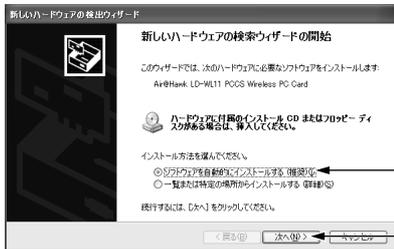
ドライバのインストール



ドライバのインストールを開始する前に必ずセットアッププログラムを実行しておいてください。セットアッププログラムを実行せずにドライバのインストールを開始すると、正常にインストールできません。詳しくは14ページ「セットアッププログラムの実行」をお読みください。

1 本製品をはじめてコンピュータに取り付けたときに、新しいハードウェアを見つけたことを知らせるメッセージが表示されます。

2 「ソフトウェアを自動的にインストールする」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。



MEMO ご使用の環境によっては、CD-ROMをCD-ROMドライブに入れると自動的に手順 3 の画面に進む場合があります。

3 下記のような画面が表示された場合は、「続行」ボタンをクリックします。ドライバのインストールが開始されます。



このドライバについては、弊社にてWindows XP上で正常に動作することを検証しております。

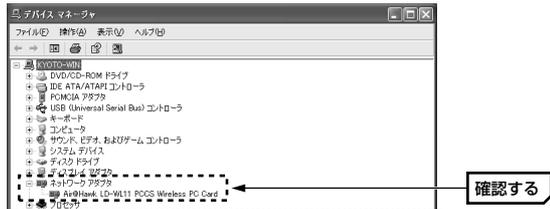
4 しばらくすると、インストールが完了したことを知らせるメッセージが表示されますので、「完了」ボタンをクリックします。



5 次の手順でデバイスマネージャを表示します。

- ① [スタート]をクリックし、[マイコンピュータ]にカーソルを合わせます。
- ② マウスを右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]を選択します。
- ③ 【ハードウェア】タブを選択し、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックします。

- 6** 「ネットワークアダプタ」の **+** をクリックし、「Air@Hawk LD-WL11/PCCS Wireless PC Card」が表示されることを確認します。



・他の名称が表示されたり×マークや！マークが付いているときは正常にインストールが完了していません。70ページ「こんなときは」をお読みください。

これでWindows XPへのドライバのインストールは完了です。このあとは50ページ「Windows XPでの無線LAN設定」へ進んでください。



このあとのWindows XPでのネットワーク設定等の説明については、無線LANが正常に動作していることを確認してからお読みください。

サービスとプロトコルの確認

無線LANの設定が終われば、ネットワーク設定の確認と設定をおこないます。LANではコンピュータにアダプタを取り付けただけではデータのやり取りをすることはできません。データをやり取りしたり、インターネットに接続するために必要なサービスとプロトコルを設定する必要があります。ここでは小規模なネットワークでデータのやり取りやインターネットに接続するための一般的な設定例を説明します。

- 1** [スタート]→[コントロールパネル]を選択します。次に、コントロールパネルにある「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。



- 2** <ネットワークとインターネット接続>画面で「ネットワーク接続」をクリックします。



- 3** 「ワイヤレス ネットワーク接続」を選択し、[ファイル]メニュー→[プロパティ]を選択します。



・「ワイヤレス ネットワーク接続のプロパティ」画面が表示されます。

- 4** お使いのネットワーク環境に応じて、必要なサービスやプロトコルが有効になっているか確認します。



・「接続の方法」に「Air@Hawk LD-WL11/PCOS Wireless PC Card」と表示されない場合、ドライバが正常にインストールされていない可能性があります。インストールをやり直してください。

MEMO 一覧に表示されていないプロトコルやサービスを使う場合は、**インストール** ボタンをクリックし、メッセージに従って操作します。

MEMO DHCPサーバ機能がない環境でTCP/IPを使用するときはインターネットに接続するために使用するルータなどには、IPアドレスを自動的にネットワーク機器に割り当てるDHCPサーバ機能があります。しかし、DHCPサーバ機能を使用しない場合や特定のIPアドレスを割り当てる必要がある場合は、次の手順で設定してください。

- ①「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、**プロパティ** ボタンをクリックします。
- ②「次のIPアドレスを使う」を選択し、IPアドレスとサブネットマスクを入力します。



- 5** 【ワイヤレス ネットワーク接続のプロパティ】画面の **OK** ボタンをクリックします。

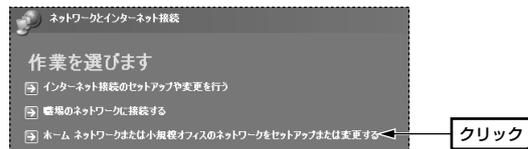
これで、サービスとプロトコルの確認ができました。

ネットワークの設定例

ここではWindows XPを使用してLAN上の他のコンピュータとファイルやプリンタを共有するための設定例について説明しています。この設定は無線LANが正常に動作していることを確認してからおこなってください。無線LANが正常に動作する前に設定することはできません。また、インターネットに接続するための設定についてはお使いのルータなどの取扱説明書をご覧ください。

- 1** [スタート]→[コントロールパネル]を選択します。次に、コントロールパネルにある「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。

- 2** 「ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する」をクリックします。



- 3** ネットワークセットアップウィザードの「ネットワークセットアップウィザードの開始」画面が表示されたら、**次へ** ボタンをクリックします。

- 4** 「続行する前に...」画面の説明を読み、ネットワークに接続するための準備ができていないか確認し、**次へ** ボタンをクリックします。

- 5** <接続方法を選択してください。>画面で、実際にご使用の環境に合わせて接続方法を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。

MEMO ご使用のネットワークがインターネットに接続していない場合は、「その他」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。
この場合、<ほかのインターネット接続の方法…>画面が表示されますので、「インターネットに接続していないネットワークに属している」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。そのあと手順 **6** へ進みます。

- 6** <このコンピュータの説明と名前を入力してください。>画面が表示されたら、[コンピュータの説明]と[コンピュータ名]を入力し、**次へ** ボタンをクリックします。

コンピュータの説明	コンピュータを所有している部署や設置場所の名前など、コンピュータに関する簡単な説明文を入力します。
コンピュータ名	このコンピュータに付ける名前を設定します。一般的には、個人単位で使うコンピュータならユーザの名前、部署単位で使うコンピュータなら部署名などを入力します。

- 7** <ネットワークの名前を付けてください。>画面で、[ワークグループ名]を入力し、**次へ** ボタンをクリックします。



ワークグループ名	このコンピュータを接続するネットワークのグループです。プリンタやファイルを共有する同じネットワーク上のコンピュータには、すべて同じワークグループ名をつけます。
----------	---

- 8** <ネットワーク設定を適用する準備ができました。>画面で設定を確認し、**次へ** ボタンをクリックします。

- 9** <もう少しで完了です。>画面が表示されます。ご使用になっている環境に合わせてオプションを選択し、**次へ** ボタンをクリックします。

・「ネットワークセットアップディスク」を作成すると、そのディスクを使って他のコンピュータのネットワーク設定を簡単におこなうことができます。

- 10** <ネットワークセットアップウィザードの完了。>画面で、**完了** ボタンをクリックします。

- 11** 再起動を促すメッセージが表示されたら、**はい** ボタンをクリックします。

コンピュータが再起動し、ネットワークの設定が有効になります。

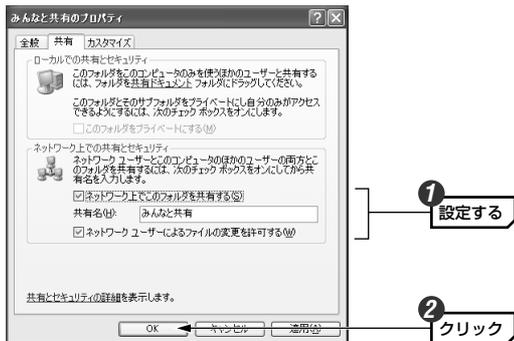
共有フォルダの設定

ネットワーク上の他のコンピュータから、このコンピュータのフォルダにアクセスできるようにするには、フォルダごとに共有とセキュリティの設定をする必要があります。

MEMO マイコンピュータには、「共有ドキュメント」という共有フォルダが自動的に作成されます。ここでは任意に設定したフォルダを共有化する説明をします。

- 7** 共有したいフォルダを右クリックし、メニューから[共有とセキュリティ]を選択します。

- 2** [ネットワーク上での共有とセキュリティ]の項目を設定し、**OK** ボタンをクリックします。



ネットワーク上でこのフォルダを共有する	他のコンピュータからこのフォルダにアクセスできるようにするには、この項目を有効にします。
共有名	他のコンピュータでは、ここで設定したフォルダ名が表示されます。
ネットワークユーザーによるファイルの変更を許可する	他のコンピュータのユーザがこのフォルダ内のファイルを変更できるようにするには、この項目を有効にします。

これで、他のコンピュータからこのフォルダにアクセスできるようになりました。

MEMO 同じようにLAN上のコンピュータに接続されたプリンタを共有することもできます。

- ① プリンタが接続されたコンピュータで[スタート]→[コントロールパネル]を選択し、コントロールパネルにある「プリンタとその他のハードウェア」をクリックします。
- ② 「プリンタとFAX」をクリックします。
- ③ 共有したいプリンタのアイコンを右クリックし、メニューから[共有]を選択します。

9 Windows Me/98でのセットアップ

はじめて使用するときは、ドライバのインストール作業が必要です。

注意 ドライバのインストールを開始する前に必ずセットアッププログラムを実行しておいてください。セットアッププログラムを実行せずにドライバのインストールを開始すると、正常にインストールできません。詳しくは14ページ「セットアッププログラムの実行」をお読みください。

- 1** 本製品をはじめてPCカードスロットに取り付けたときに、新しいハードウェアを見つけたことを知らせるメッセージが表示されます。

- 2** 自動的にドライバのインストールが始まります。

MEMO Windows 98でコンピュータ名、ワークグループ名の入力を促されたとき
※Windows Me/98 Second Editionでは表示されません。

- ① [コンピュータ名]の入力を促すメッセージが表示されますので **OK** ボタンをクリックします。
- ② **【識別情報】** タブで[コンピュータ名]と[ワークグループ名]を入力してください。入力が終われば **OK** ボタンをクリックします。



コンピュータ名	インストール中のコンピュータに与える名称を設定します。一般的には、個人単位で使うコンピュータならユーザの名前、部署単位で使うコンピュータなら部署名などを入力します。
ワークグループ	インストール中のコンピュータが接続されるネットワークのグループ名をつけます。同一ネットワーク上のコンピュータのワークグループ名はすべて同じにする必要があります。

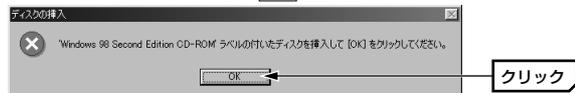
3 お使いの環境によっては、次のようなメッセージが表示されることがあります。

● 「pccs.sys」の入ったディスクを要求されたとき

付属のCD-ROMをドライブに入れ、CD-ROMを入れたドライブ名のあとに「pccs¥driver¥win982kmexp」フォルダを指定します。**[OK]** ボタンをクリックします。

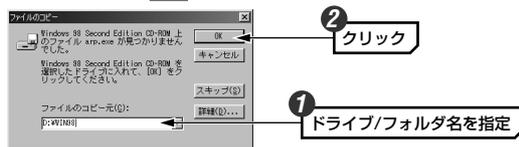
(例) CD-ROMドライブがDドライブの場合(小文字でも可)

D:¥pccs¥driver¥win982kmexp

● Windows 98のCD-ROMを挿入するようにメッセージが表示されたとき
CD-ROMをドライブに挿入し、**[OK]** ボタンをクリックします。

・Windows 98には「Windows 98 CD-ROM」と「Windows 98 SECOND EDITION CD-ROM」がありますのでご注意ください。

MEMO 次のような画面が表示された場合はCD-ROMを入れたドライブの「WIN98」フォルダを指定し、**[OK]** ボタンをクリックします。



・ドライブ名のあとに必ず「WIN98」ディレクトリを指定します。

(例) CD-ROMドライブがDドライブの場合(小文字でも可)

D: ¥WIN98

MEMO すでにインストールされているファイルのほうが新しい場合、そのファイルを上書きするかどうかの確認のメッセージが表示されます。この場合は、日付の新しいファイルをそのまま使用するようにしてください。

4 必要なファイルがインストールされ、ドライバのインストールが完了します。

・ドライバのインストールが完了しても特にメッセージは表示されません。

5 デスクトップ画面の[マイコンピュータ]アイコンを右クリックし、ポップアップメニューの[プロパティ]を選択します。**6** <システムのプロパティ>画面が表示されます。[デバイスマネージャ]タブにある「ネットワーク」の **[+]** をクリックし、「Air@Hawk LD-WL11 / PCCS Wireless PC Card」が表示されることを確認します。

・本製品が見あたらなかったり、×マークや！マークが付いているときは正常にインストールが完了していません。70ページ「こんなときは」をお読みください。

MEMO ネットワークアダプタに「ダイヤルアップアダプタ」が表示されている場合がありますが、これはアナログモデム/TA用でLANアダプタとは関係ありません。

これでWindows Me/98へのドライバのインストールは完了です。このあと次の作業をおこなってください。

①お使いになるネットワーク環境に合わせて、ネットワークの設定を追加および変更してください。➡次ページからピア・ツー・ピアの設定例があります。

②設定ユーティリティにより、無線LANの設定をおこなってください。
➡49ページから設定ユーティリティについての説明があります。

Windows Me/98の小規模ネットワークでよく利用されるピア・ツー・ピア環境の設定例を説明します。画面例はWindows Meを使用していますがWindows 98でもほとんど同じです。

- 1** [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の順に選択し、コントロールパネルにある「ネットワーク」をダブルクリックします。



ネットワーク

- ・〈ネットワーク〉画面が表示されます。
- ・Windows Meの場合よく使うコントロールパネルだけが表示されているときは、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックすると「ネットワーク」が表示されます。

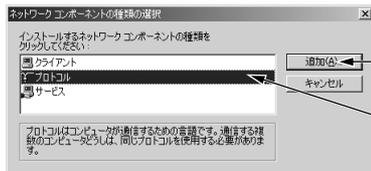
- 2** 【ネットワークの設定】タブにある「追加」ボタンをクリックします。



クリック

ご使用の環境により実際に一覧に表示される内容は、この画面例とは異なることがあります。

- 3** インストールするネットワークコンポーネントとして「プロトコル」を選択し、「追加」ボタンをクリックします。

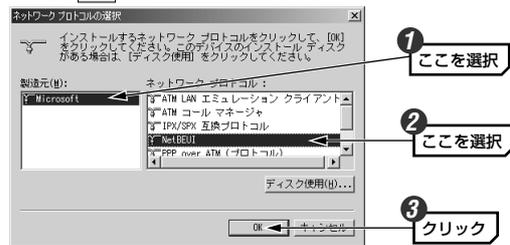


2 クリック

1 ここを選択

- ・〈ネットワークプロトコルの選択〉画面が表示されます。

- 4** 製造元で「Microsoft」を、ネットワークプロトコルで「NetBEUI」を選択します。「OK」ボタンをクリックします。



1 ここを選択

2 ここを選択

3 クリック

- 5** プロトコルが追加されたことを確認します。また、インターネットに接続する場合は、「TCP/IP」プロトコルがインストールされていることを確認します。



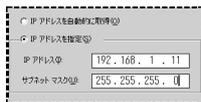
追加されたプロトコル

インターネットプロトコル「TCP/IP」

- ・TCP/IPプロトコルがない場合は、手順 **2** ~ **4** を参考にして追加します。

MEMO DHCPサーバ機能がない環境でTCP/IPを使用するときはインターネットに接続するために使用するルータなどには、IPアドレスを自動的にネットワーク機器に割り当てるDHCPサーバ機能があります。しかし、DHCPサーバ機能を使用しない場合や特定のIPアドレスを割り当てる必要がある場合は、次の手順で設定してください。

- ①「TCP/IP->Air@Hawk LD-WL11/PCCS」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。※アダプタがひとつの場合は「TCP/IP」とだけ表示されます。
- ②「IPアドレスを指定」を選択し、IPアドレスとサブネットマスクを入力します。



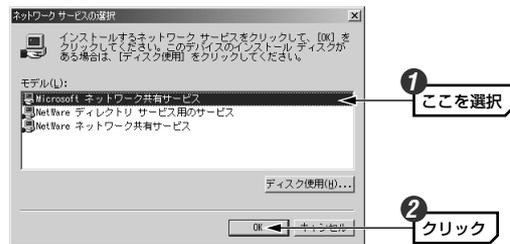
- 6 もう一度、〈ネットワーク〉画面で「追加」ボタンをクリックします(手順 2 参照)。

・〈ネットワークコンポーネントの種類の選択〉画面が表示されます。

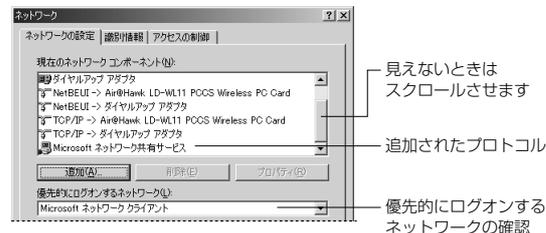
- 7 インストールするネットワークコンポーネントとして「サービス」を選択し、「追加」ボタンをクリックします。

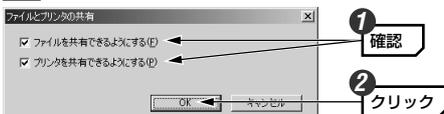


- 8 モデルとして「Microsoftネットワーク共有サービス」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

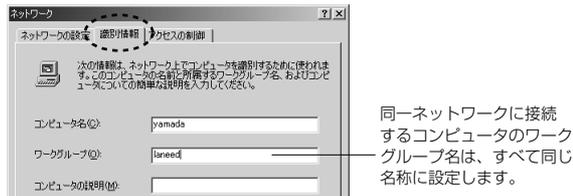


- 9 サービスが追加されたことを確認します。また、[優先的にログオンするネットワーク]が「Microsoftネットワーククライアント」になっていることを確認します。



10 ファイルとプリンタの共有 ボタンをクリックします。**11** 「ファイルを共有・・・」「プリンタを共有・・・」の両方を有効(☑)にし、**OK** ボタンをクリックします。

・チェックボックスをクリックすると有効/無効が切り替わります。

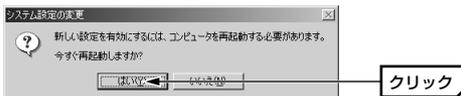
12 【識別情報】タブをクリックします。**13** 内容を確認し、正しければ **OK** ボタンをクリックします。

- ・変更が必要な場合は[コンピュータ名]と[ワークグループ]を入力します。
- ・項目の意味については、31ページの「MEMO」を参照してください。

14 ディスクの挿入を促すメッセージが表示されたときは、Windowsのディスクを挿入し、**OK** ボタンをクリックします。

- ・表示されたメッセージに対応したOSのディスクを入れます。
- ・Windows 98には「Windows 98 CD-ROM」と「Windows 98 SECOND EDITION CD-ROM」がありますのでご注意ください。

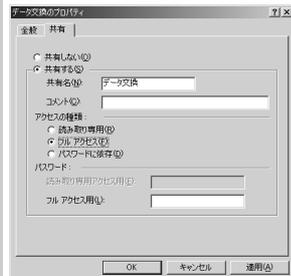
MEMO ディスクを挿入したドライブを指定する画面が表示されたときは、32ページの手順 **3** の「MEMO」を参考に指定します。ドライブ名のあとに、Windows 98なら「WIN98」ディレクトリを、Windows Meなら「WIN9x」ディレクトリを指定し、**OK** ボタンをクリックしてください。

15 再起動を確認するメッセージが表示されますので **はい** ボタンをクリックします。**16** 再起動すると設定した内容が有効になります。これでピア・ツー・ピアのネットワーク設定は完了です。なお、同じネットワークに接続されるコンピュータにはすべて同じ設定をする必要があります。

MEMO

ファイルやプリンタを共有するには、ネットワークが有効になってから次の手順で共有設定をおこなってください。

■ファイル共有の画面例



- ①共有したいファイルのあるフォルダやプリンタのアイコンを右クリックし、メニューを表示します。
- ②メニューから[共有]を選択します。
- ③「共有する」を有効にし、必要な事項を設定します。

11 Windows 2000でのセットアップ

Lanlead

Windows 2000にドライバをインストールする方法とネットワークを共有するために必要な設定例について説明します。

ドライバのインストール

はじめて使用するときはドライバのインストール作業が必要です。



ドライバのインストールを開始する前に必ずセットアッププログラムを実行しておいてください。セットアッププログラムを実行せずにドライバのインストールを開始すると、正常にインストールできません。詳しくは14ページ「セットアッププログラムの実行」をお読みください。

- 1** 本製品をはじめてコンピュータに取り付けたときに、新しいハードウェアを見つけたことを知らせるメッセージが表示されます。

- 2** 「デジタル署名が見つかりませんでした」と表示されます。**[はい]** ボタンをクリックします。



- 3** ドライバのインストールがはじまり、しばらくすると本製品が自動的に認識されます。

・コンピュータによっては本製品が認識されたことを知らせる小さな音が鳴る場合があります。

これでWindows 2000へのドライバのインストールは完了です。このあと次の作業をおこなってください。

①お使いになるネットワーク環境に合わせて、ネットワークの設定を追加および変更してください。➡このあとにWindows 2000の設定例があります。

②設定ユーティリティにより、無線LANの設定をおこなってください。
➡52ページからの説明をお読みください。

ネットワークの設定例

基本的なネットワークでの設定例を説明します。

Windows 2000にはAdministrator権限でログオンしておきます。

1 [スタート]→[設定]→[ネットワークとダイヤルアップ接続]を開きます。

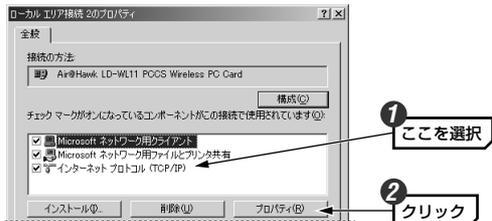
・〈ネットワークとダイヤルアップ接続〉画面が表示されます。

2 [ローカルエリア接続]を右クリックし、メニューから[プロパティ]を選択します。

・〈ローカルエリア接続のプロパティ〉画面が表示されます。

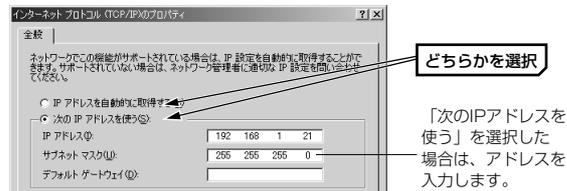
MEMO [ローカルエリア接続]の名称は、アダプタをインストールした環境によって変わります。〈ローカルエリア接続のプロパティ〉画面に表示されるアダプタ名を見て、ネットワークを設定するアダプタであるかを確認してください。

3 [インターネットプロトコル(TCP/IP)]を選択し、[プロパティ] ボタンをクリックします。



・〈インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ〉画面が表示されます。

4 IPアドレスに関する設定をします。



「次のIPアドレスを使う」を選択した場合は、アドレスを入力します。

●DHCPサーバ(機能)を使用している場合
「IPアドレスを自動的に取得する」を選択します。

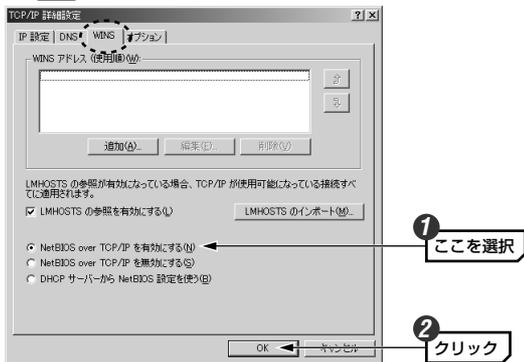
●DHCPサーバ(機能)を使用していない場合
「次のIPアドレスを使う」を選択し、IPアドレスとサブネットマスクを入力します。「デフォルトゲートウェイ」と「DNSサーバ」はルータなどを使用してLANを超える場合に使用する項目なので、ここでは入力していません。

- 5 IPアドレスの設定が終われば、**詳細設定** ボタンをクリックします。



・〈TCP/IP詳細設定〉画面が表示されます。

- 6 [WINS] タブで、「NetBIOS over TCP/IPを有効にする」をオン(☑)にし、**OK** ボタンをクリックします。



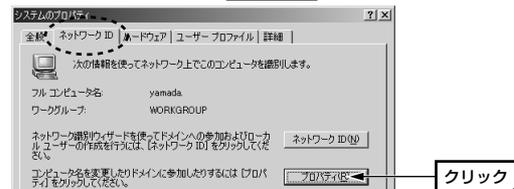
・〈インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ〉画面に戻ります。

- 7 〈インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ〉画面→〈ローカルエリア接続のプロパティ〉画面で、それぞれ **OK** ボタンをクリックして画面を閉じます。さらに〈ネットワークとダイヤルアップ接続〉画面を閉じます。

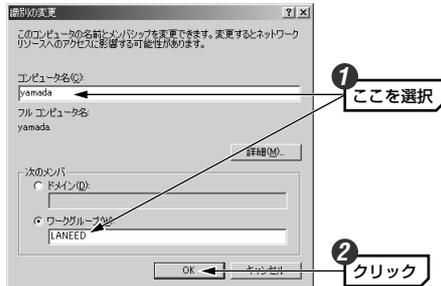
- 8 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の[システム]アイコンを開きます。

・〈システムのプロパティ〉画面が表示されます。

- 9 [ネットワークID] タブで、**プロパティ** ボタンをクリックします。



- 10 コンピュータ名とワークグループ名を設定し、**OK** ボタンをクリックします。



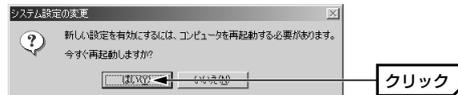
・表示されているコンピュータ名とワークグループ名から変更する必要がない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックします。

- 11** 名称を変更すると次のようなメッセージが表示されます。それぞれ **OK** ボタンをクリックします。



- 12** <システムのプロパティ> 画面で、**OK** ボタンをクリックします。

- 13** 設定を変更した場合は、再起動を促すメッセージが表示されますので **はい** ボタンをクリックします。



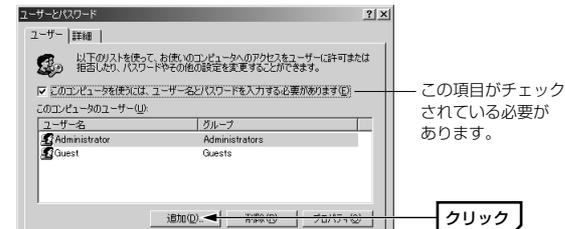
これで基本的なネットワーク設定は完了です。このあと、同じ要領で実際の環境に合った設定をおこなってください。

ユーザアクセス権の設定

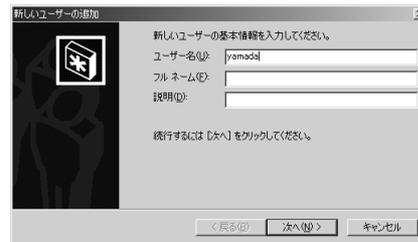
Windows 2000をインストールしたコンピュータにアクセスできるようにするには、あらかじめ、アクセスを許可するユーザを登録しておく必要があります。

- 1** [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の順に選択し、コントロールパネルにある[ユーザーとパスワード]を開きます。

- 2** <ユーザーとパスワード> 画面が表示されますので、**追加** ボタンをクリックします。



- 3** このあとは、ウィザードのメッセージに従って、新しいユーザを登録します。



- 4** 登録が完了すると、登録したユーザのアクセスが許可されます。

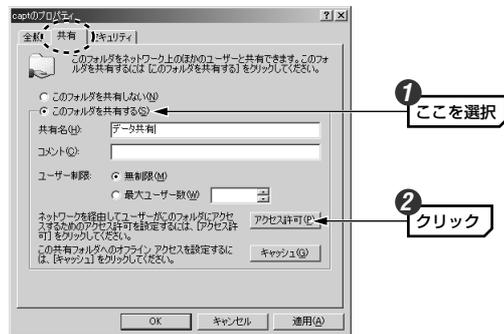
フォルダなどの共有設定

Windows 2000上のフォルダやドライブにアクセスできるように共有設定をおこないます。Windows 2000はアクセス権の設定がWindows Me/98に比べて詳細になっています。また、NTFSフォーマットでドライブをフォーマットしている場合は、さらにセキュリティ設定が必要になります。

- 共有したいフォルダを右クリックし、メニューから[プロパティ]を選択します。

・フォルダのプロパティが表示されます。

- 【共有】タブで「このフォルダを共有する」を有効にし、**アクセス許可** ボタンをクリックします。



- このあとは、必要に応じてフォルダに対するアクセス権を設定してください。なお、NTFSフォーマットの場合は、【セキュリティ】タブでアクセス権を設定することをお勧めします。

無線LANの設定

Laneed!

無線LANが使用できるように設定します。Windows XPとそれ以外のOSでは設定方法が異なりますので、ご使用のOSに合わせてこのあとの説明をお読みください。

- ・ Windows XPの場合 → 次ページより
- ・ Windows Me/98/2000の場合 → 52ページより

MEMO 本製品の設定ユーティリティやアクセスポイントのファームウェアは、機能向上のために更新されていることがあります。弊社ホームページ(<http://www.elecom.co.jp>)にアクセスするなどして、常に最新のユーティリティおよびファームウェアに更新してください。

接続作業の前に

●ESS IDの設定について

本製品はESS IDが「空白」の状態で出荷されています。この場合はご使用になっている無線LANグループのESS IDに関係なく、近接の無線LANに自動的に接続することができます。ただし、近接する場所に複数の無線LANがある場合は、混信する可能性がありますので、接続を確認できたあとはESS IDをご使用になっている無線LANグループのESS IDに変更することをお勧めします。ESS IDの詳しい説明については12ページ「ESS ID」をお読みください。

●本製品からアクセスポイントを設定する場合

Windows Me/98/2000で本製品から無線LANを使ってアクセスポイントのユーティリティを設定する場合は、本製品の設定ユーティリティの設定を初期値のままにしてアクセスポイントに接続してください。本製品のESS IDを先に変更してしまうとアクセスポイントに接続できなくなります。先に変更してしまった場合は【ネットワーク設定】タブの **初期値** ボタンで初期値に戻してください。

Windows XPでの無線LAN設定

Windows XP上で本製品が使用できるように無線LANの設定をおこないます。

1 インフラストラクチャ・モードの場合はアクセスポイントまたは無線ルータを起動しておきます。アドホック・モードの場合は、無線LANアダプタを取り付けたコンピュータをもう1台起動しておきます。

2 デスクトップ画面の右下のタスクトレイにある[ワイヤレスネットワーク]アイコンをクリックします。この時点では、まだ無線LANに接続できていないので×マークが付いています。



MEMO 環境によっては自動的に無線LANを認識する場合があります。この場合、クリックするとすぐに手順 **4** の画面が表示されます。

3 「利用できるネットワーク」に接続する無線LANのESS IDが表示されます。

接続 ボタンをクリックします。



現在設定されている無線LANのESS IDが表示されます。

4 無線LANに自動的に接続し、〈ワイヤレス ネットワーク接続の状態〉画面が表示されます。内容を確認したら **閉じる** ボタンをクリックします。



・ [接続]の各状態を見て、正常に動作していることを確認してください。
 ・ 速度が遅かったり、シグナルが弱いときは、アクセスポイントや本製品の位置を調整してください。

MEMO 上記の画面が表示されなかったとき
 もう一度、タスクトレイにある  アイコンをクリックしてください。

これで無線LANの動作確認は完了です。

・ よりセキュリティを高めるためにWEPを設定することができます。設定方法については、62ページ「WEPの設定(暗号化タブの設定)」をお読みください。

MEMO 無線LANが正しく設定されていても、各コンピュータのネットワーク設定やインターネットへ接続する設定が終わっていないと、それぞれには接続できません。Windows XPでの設定例については24ページ「サービスとプロトコルの確認」および27ページ「ネットワークの設定例」をお読みください。

Windows XP以外のOSでの無線LAN設定

Windows XP以外の対応OSでの無線LAN設定は、付属の設定ユーティリティでおこないます。無線LANには2つの通信モードがあります。ご使用になる環境がどちらの通信モードになるかを確認してから操作手順をお読みください。

インフラストラクチャ・モード	無線LANのアクセスポイントまたは無線ルータを經由してデータのやり取りをします。
アドホック・モード	アクセスポイント等を使用せず、無線LANアダプタを取り付けたパソコン同士が直接データのやり取りをします。

1 ご使用の通信モードに合わせて、アクセスポイントまたは無線ルータ、無線ANアダプタを取り付けたコンピュータを起動しておきます。

- ・インフラストラクチャ・モードではアクセスポイントが、アドホック・モードでは接続相手のコンピュータが起動していないと設定できません。

2 設定ユーティリティが表示されていない場合は、タスクトレイにあるユーティリティアイコンをクリックします。



- ・〈設定ユーティリティ〉画面が表示されます。



注意 アイコンが赤色などで表示されているとき
本製品は正常に動作していません。アクセスポイントなど接続相手が正常に動作しているか確認してください。詳しくは70ページ「こんなときは」を参照してください。

3 【モニター】タブの【修正】ボタンをクリックします。



- ・各項目の修正が可能になります。

4 「通信モード」を選択します。アドホック・モードの場合は「802.11アドホックモード」を選択し、「チャンネル」でチャンネル番号を指定します。インフラストラクチャ・モードの場合は、そのまま変更する必要はありません。

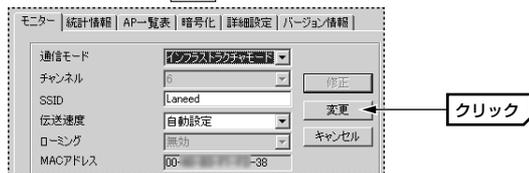


- ・アドホック・モードの場合は、すべての無線LANアダプタを同じチャンネルに設定します。
- ・インフラストラクチャ・モードではチャンネル設定は無効です。

5 ESS ID(SSID)を入力します。

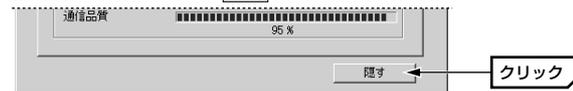


- ・ESS IDを半角英数字32文字以内で入力します。大文字と小文字が区別されます。無線LAN上の同一グループに所属するコンピュータはすべて同じ名称にします。ESS IDの異なるコンピュータに接続することはできません。
- ・弊社のアクセスポイントおよび無線ルータのESS IDが初期値のままの場合は、無線LANの接続が確認できるまでは、初期値の「空白」のままでもかまいません。ただし、接続を確認したあとは設定を変更してください。初期値のままでは不正アクセスや混信の原因になります。

6 設定を保存するため **変更** ボタンをクリックします。**7** 次のことを確認してください。

- ① 「接続状態」に接続先のアクセスポイントなどのMACアドレスが表示されているか。
- ② 「信号強度」「通信品質」のインジケータが動作しているか(「0%」の場合、正常に接続されていません)

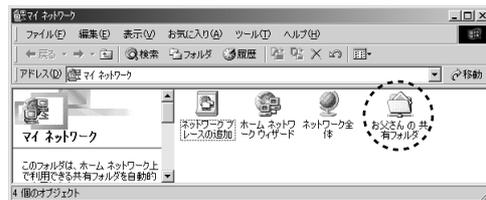
これらの項目の状態が正常でない場合は、70ページ「こんなときは」を参照してください。

8 正常に動作が確認できれば **隠す** ボタンをクリックします。

・再表示する場合はタスクトレイのアイコンをダブルクリックします。

9 「マイネットワーク」で相手の共有フォルダを確認したり、WEBブラウザでインターネットに接続できるかを確認します。

◆マイネットワークで共有フォルダを確認した場合の画面例



MEMO 無線LANが正しく設定されていても、各コンピュータのネットワーク設定やインターネットへの接続設定が終わっていないと接続できません。

- ・共有フォルダで確認するには、ネットワーク設定が完了して相手のコンピュータに共有フォルダが設定されている必要があります。
- ・インターネットに接続して確認するには、あらかじめ他のコンピュータでインターネットに接続できることを確認しておく必要があります。また、本製品を取り付けたコンピュータのTCP/IPプロトコル設定を完了しておく必要があります。
TCP/IPの確認方法については、このマニュアルのネットワーク設定に関する説明を参考にしてください。

これで無線LANの設定と動作確認は完了です。

- ・よりセキュリティを高めるためにWEPなどを設定したり、その他のオプションを設定する場合は次ページからの「各タブのリファレンス」をお読みください。

13 各タブのリファレンス

Laneed

モニター タブ

モニター タブでは現在の本製品の状態を知ることができます。また、**修正** ボタンをクリックすると、無線LANの基本的な設定事項を変更することができます。

◆モニター タブ



通信モード	無線LANアクセスポイントまたは無線ルータを経由してデータのやり取りをする「インフラストラクチャ・モード」と、アクセスポイント等を使用せず、無線LANアダプタを取り付けたパソコン同士が直接データのやり取りをする「802.11アドホックモード」を選択できます。
チャンネル	802.11アドホック・モードを使用する場合は、チャンネルを指定します。同一の無線LANグループの無線LANアダプタはすべて同じチャンネルを使用するように設定します。インフラストラクチャ・モードでは関係ありません。

SSID	初期値は「空白」です。初期値のままご利用の場合は、不正アクセスや混信を防ぐため、動作確認後はご使用になる無線LANグループのESS IDに設定を変更することをお勧めします。入力できる文字は半角英数字32文字までです。大文字と小文字が区別されます。
伝送速度	通常は「自動設定」に設定しておくこと、信号強度に合わせて自動的に伝送速度を調整します。信号強度が高い場合は高速に、弱い場合は低速になります。通信距離よりも通信速度を有線したい場合などは速度を固定することもできます。速度を固定した場合は、通信速度が維持できないほど信号強度が低下すると通信できなくなります。
ローミング	現在は設定できません。
MACアドレス	本製品のMACアドレスを表示します。
接続状態	現在の接続先のMACアドレスを表示します。
信号強度	現在の接続状態の最大100%で表示します。%が高いほど良好です。
信号品質	現在の信号状態を最大100%で表示します。%が高いほど良好です。

● **修正** ボタン

現在の無線LANに関する設定を変更したい場合にクリックします。変更可能な項目の設定が可能になります。

● **変更** ボタン

変更した設定を保存する場合は、必ず **変更** ボタンをクリックします。保存しない場合は **キャンセル** ボタンをクリックします。

統計情報 タブ

【統計情報】タブでは、データの送受信などのパケットの状態を確認することができます。

◆統計情報タブ

モニター 統計情報 AP一覧表 暗号化 詳細設定 バージョン情報		
	送信	受信
データパケット		
成功	164	914
失敗	0	0
マネージメントパケット		
成功	0	81872
失敗	0	0
不正パケット		
	0	0

クリア

● クリア ボタン

いったん統計情報を消去して、新しく統計情報を再開します。

AP一覧表 タブ

接続可能なアクセスポイントの情報が一覧で表示されます。検索中は一時的に無線LANの接続が中断されることがあります。

◆詳細設定タブ

モニター 統計情報 AP一覧表 暗号化 詳細設定 バージョン情報					
BSSID	SSID	シグナル	チャンネル	WEP	通信モード
00	Lanlead	N/A	6	No	インフラストラクチャモード

再検索 キャンセル

● 再検索 ボタン

接続可能なアクセスポイントをもう一度検索します。

詳細設定 タブ

【詳細設定】タブでは本製品のオプション機能を設定できます。

◆詳細設定タブ



●Preambleタイプ

Preambleタイプを選択します。Preambleには、同期ビット(同期のための情報)を含んでおり、IEEE802.11bによって定義されています。「Short」は一部の無線LAN製品がサポートしています。「Long」は、ほとんどの無線LAN製品がサポートしています。「Auto」の場合はファームウェアが自動的に判別しますので、通常は「Auto」のまま変更しないでください。

●フラグしきい値

通常はこのまま変更する必要はありません。通信状態が悪い環境では、同じデータの送信を何度もくり返して要求されることがあります。このような環境で、大きなファイルサイズのデータを送信すると、再送信がくり返されたり、それが原因でコリジョンが発生したりします。このような場合に、この値を小さくします。設定した値を超えるパケットが端末から送信された場合に、パケットが小さく分割されコリジョンを回避することができます。

※2346未満の数値に設定した場合にこの機能が有効になります。

●隠れ端末問題

通常はこのまま変更する必要はありません。障害物などにより隠れ端末ができると、コリジョンが発生してデータの転送効率が低下することがあります。このような場合は、この値を小さくすると、設定した値を超えるパケットが端末から送信された場合に、CSMA/CA with RTS/CTS方式で通信するようになります。これにより、パケットが小さく分割されコリジョンを回避することができます。

※2437未満の数値に設定した場合にこの機能が有効になります。

●802.11省電力

本製品を省電力モードで使用するとコンピュータ本体の消費電力を抑えることができます。コンピュータ本体が省電力モードに対応している場合にチェックします。コンピュータ本体が省電力モードに対応していない場合はチェックしないでください。間違った設定をすると認識されないなどの問題が発生する恐れがあります。

バージョン情報 タブ

ドライバ、ファームウェア、設定ユーティリティの各バージョンを表示します。ドライバの更新やファームウェア、設定ユーティリティのアップデートなどでバージョンを確認する場合に使用します。

◆バージョン情報タブ



WEPの設定(暗号化 タブの設定)

無線LAN上でやり取りされるデータを盗聴から保護するためにWEP(Wired Equivalent Privacy)に基づいてデータを暗号化します。これにより、WEPを設定したコンピュータだけがデータを読み取れるようにします。なお、WEPの設定はWindows XPではOS標準の機能を使用し、その他のOSでは設定ユーティリティの機能を使用します。

WEP設定のポイント

WEPキーにはキー1～キー4まであり、同時に4種類のキーを登録できます。コンピュータAとコンピュータBの間で暗号化したデータをやり取りする場合は、お互いが同じWEPキー番号(キー1～キー4のいずれか)に同じキーワードを入力します。これで相互に暗号化されたデータを正しく受信できます。キー番号は4つありますが、実際に使用するのはひとつだけです。使用するWEPキー番号にだけ文字列を設定してもかまいません。WEPを設定しても暗号キーの文字列が異なったり、文字列が同じでも使用するWEPキー番号が異なったりすれば、データのやり取りはできません。



※Windows XPではキーのインデックスという名称で表記され、キー1→インデックス0、キー2→インデックス1、キー3→インデックス2、キー4→インデックス3になります。

キーに入力できる文字と文字数

各キー(キー1～キー4)に入力できる文字は半角文字の16進数または半角英数字だけです。16進数とは0～9の数字とA～Fのアルファベットで構成される文字列です。例えば「0C2F91A27B」のようになります。全角文字や記号は使えません。入力する文字数は16進数を入力する場合は64ビットなら10桁の文字列を、128ビットなら26桁の文字列を入力します。半角英数字を入力する場合は64ビットなら5桁の文字列を、128ビットなら13桁の文字列を入力します。それぞれ文字数は固定で、多くても少なくても正しく設定できません。

※本製品およびWindows XPでは暗号にASCII文字を使用できますが、同じ無線LANグループに16進数しか扱えない機器がある場合はASCII文字は使用できません。また、Windows XPでは本製品の64ビットが「40ビット(10 桁)」と、本製品の128ビットが「104ビット(26桁)」と表記されています

WEPの設定手順(Windows XPの場合)

Windows XP標準の機能を使用します。

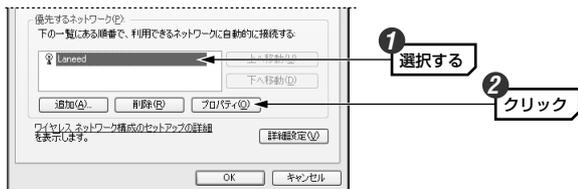
- 1 デスクトップ画面右下のタスクトレイにある[ワイヤレスネットワーク]アイコンをクリックします。



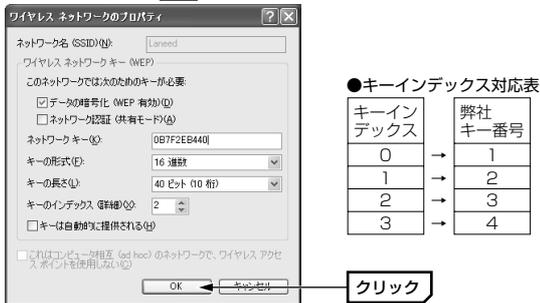
- 2 <ワイヤレス ネットワーク接続の状態> 画面で、**プロパティ** ボタンをクリックします。

3 <ワイヤレス ネットワーク接続のプロパティ> 画面で、【ワイヤレス ネットワーク】タブを選択します。

4 [優先するネットワーク]にある使用中のESS IDを選択し、【プロパティ】ボタンをクリックします。



5 必要事項を設定し、【OK】ボタンをクリックします。



- ①「データの暗号化」を選択します。
- ②「キーは自動的に提供される」のチェックをはずします。
- ③キーの形式で「16進数」か「ASCII文字」を選択します。
- ④キーの長さで40ビット(弊社の64ビットに相当)または104ビット(弊社の128ビットに相当)のどちらかを選択します。

⑤キーのインデックス(弊社のキー番号に相当)を選択します。

※Windows XPのキーインデックスと弊社製品のキー番号は、表のように対応しています。

⑥ネットワークキーに暗号キーを入力します。

- ・キーの形式で「16進数」を選択した場合は、40ビットなら10桁、104ビットなら26桁の16進数を入力します。
- ・キーの形式で「ASCII文字」を選択した場合は、40ビットなら5桁、104ビットなら13桁のASCII文字を入力します。
- ・桁数が多くても少なくとも也正しく設定できません。同じ無線LANグループの機器には、すべて同じ暗号キーを入力します。

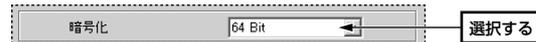
6 これで設定は完了です。すべての画面を閉じます。データのやり取りをするすべてのコンピュータおよびアクセスポイントに同じ暗号キーを設定をします。

WEPの設定手順(Windows XP以外のOSの場合)

本製品の設定ユーティリティで設定します。

1 【暗号化タブ】タブを選択します。

2 暗号化するビット数を選択します。



- 3** 暗号キーとして使用するキー番号に暗号になる文字(16進数または半角英数字)を入力します。

- ・使用しないキー番号は入力しなくてもかまいません。
- ・半角英数字(ASCII文字)または16進数(A~Fおよび0~9の英数字の組み合わせ)、下記の表を参考に入力します。文字数は指定数より多くても少なくても正しく設定できません。

	半角英数字を入力する場合	16進数を入力する場合
64bit	5文字半角英数字	10桁の16進数
128bit	13文字の半角英数字	26桁の16進数

(例) 64bitの半角英数字の場合 …… Szk9W

64bitの16進数の場合 …… 2f1c00ad38



- WEPを使用するすべての無線LAN機器は同じキー番号に同じ暗号を入力する必要があります。
- 入力した文字は「*」で表示されますので、暗号はメモするなどして大切に保管しておいてください。
- 半角英数字(ASCII文字)を使用する場合は、WEPを使用するすべての無線LAN機器が半角英数字でのWEPに対応している必要があります。

- 4** WEPで使用するキー番号およびオプションを選択します。

- ・「デフォルトキー」はWEPを使用するすべての無線LAN機器で同じキー番号を選択します。
- ・「WEPモード」の詳細については68ページの「WEPモードについて」をお読みください。
- ・「認証タイプ」については、特定の認証タイプを指定する必要がある場合以外は、「自動選択」のまま変更しないでください。

- 5** すべての設定が終われば **変更** ボタンをクリックします。

- 6** これでこのコンピュータのWEP設定は完了です。データのやり取りをするすべてのコンピュータおよびアクセスポイント、無線ルータなどと同じ設定をしてください。

WEPモードについて

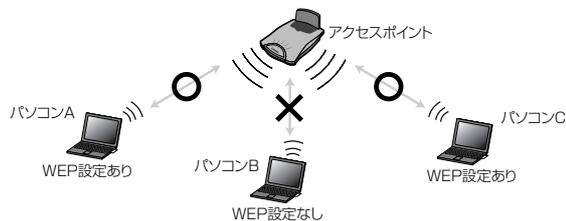
本製品の設定ユーティリティはWEPモードが選択できるようになっています。ここではWEPモードに関する説明をしています。

●スタンダード方式とオプション方式について

本製品の設定ユーティリティを使ったWEP設定には、スタンダード方式とオプション方式があります。オプション方式の場合は、WEPを設定していないコンピュータともデータのやり取りが可能になります。

●スタンダード方式

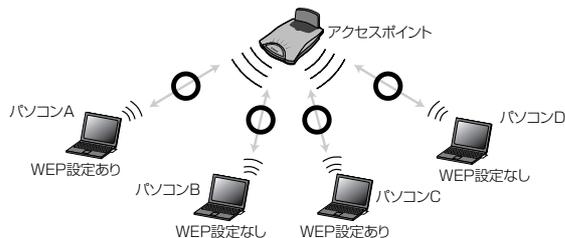
スタンダード方式の場合は、WEPを設定していないコンピュータは無線LANを使用できません。



※WEPを設定していないコンピュータはWEPを設定しているアクセスポイントやコンピュータに接続できません。

●オプション方式

オプション方式の場合は、WEPを設定したコンピュータもWEPを設定していないコンピュータも相互にデータのやり取りができます。WEPを設定していない場合との違いは、WEPを設定していない場合は、盗聴した通信をプロトコルアナライザのような解析ソフトウェアを使うことで、すべての情報を盗むことができます。これに対して、オプション方式ではそのようなソフトウェアを使っても、WEPを設定したコンピュータ同士のデータの内容を解析したり、WEPを設定していないコンピュータの通信からパスワードなどを解析することはできません。



※別のコンピュータからプロトコルアナライザなどを使って、WEPを設定したコンピュータ同士のデータを読み取ったり、WEP設定あり⇄WEP設定なしのコンピュータの間でやり取りしたデータからパスワードなどの情報を解析することはできません。

無線LAN関係のトラブル

●無線LANがつかない。

①Windows Me/98/2000で本製品を使用するには、設定ユーティリティが常駐している必要があります。タスクトレイに設定ユーティリティのアイコンがない場合(52ページ参照)は、[スタート]→[プログラム]→[LD-WL11-PCCS Utility](初期値の場合)を実行します。

②通信モードを正しく設定していますか。設定ユーティリティの【設定】タブで、通信モードが正しく設定されているか確認してください。無線LANアダプタだけで通信する場合は、「アドホック・モード」に設定し、アクセスポイントまたは無線ルータ経由で通信する場合は、「インフラストラクチャ・モード」に設定してください。

③ネットワーク設定で、実際のネットワーク環境に応じたプロトコル、サービスなどの設定をしていますか。プロトコル(TCP/IPなど)、クライアント(Microsoft Networkクライアントなど)、サービス(Microsoft Network共有サービスなど)を環境に応じて設定する必要があります。

④ルータなどのDHCPサーバ機能を使用せずにインターネットプロトコル「TCP/IP」を利用する場合は、各パソコンに手でIPアドレスを割り当てる必要があります。詳しくはWindows XP⇒26ページ、Windows Me/98⇒36ページの「MEMO」を参照してください。Windows 2000は43ページ「ネットワークの設定例」を参考にしてください。例としてはIPアドレスを192.168.1.11から順に「11」の部分を12、13、14…と変えて各パソコンに割り当てます。「192.168.1」の部分は固定です。サブネットマスクは「255.255.255.0」を割り当てます。サブネットマスクは各パソコンとも同じ数値を入力します。既存のネットワークと接続する場合は、使用中の環境に合わせます。

※CATVインターネットなどでは、回線事業者からIPアドレスを指定される場合があります。その場合は指示に従ってください。

⑤本製品のESS IDとアクセスポイント(無線ルータ)のESS IDが異なると、アクセスポイントを見つけることができません。Windows Me/98/2000の場合は、本製品の設定ユーティリティの【設定】タブの[スキャン]ボタンをクリックすると近接するアクセスポイントのESS IDが一覧で表示されます。一覧から接続するアクセスポイントのESS IDを選択してください。

⑥WEP設定やアクセスポイントのMACアドレスフィルタリング設定は正しいですか。WEPを使用する場合は、データをやり取りするすべてのコンピュータで同じ暗号を使用する必要があります。また、MACアドレスフィルタリングを設定していると、設定条件によっては無線LANに接続できない場合があります。

⑦WEPを設定している場合は、本製品から無線LANを使ってアクセスポイントを見つけることができません。そのため、本製品からアクセスポイントの設定を変更することはできません。このような場合は、有線LAN経由かTelnet経由でアクセスする必要があります。Telnetのコマンドについては、アクセスポイントのユーザズマニュアルにある「こんなときは」を参照してください。

●データの転送速度が遅い。

設定ユーティリティの伝送速度を「自動」に設定している場合、接続先のアクセスポイント(アドホック・モードではコンピュータ)との距離が離れていたり、障害物があると自動的に伝送速度が遅くなります。設定ユーティリティの信号レベルと電波状態を確認してください。なお、伝送速度を固定した場合、指定した速度では電波が届かないときは、電波が途切れてデータが送れなくなります。

共通のトラブル

●Powerランプが点灯しない。

①本製品をPCカードスロットの奥までしっかりと差し込んでいますか。
コンピュータ本体のマニュアルを読んで、本製品をPCカードスロットに確実に差し込んでください。

②PCカードスロットは正常に動作していますか。

17ページ「取り付け前に確認する」を読んで、ご使用になっているコンピュータのPCカードスロットが正常に動作しているか確認してください。

●Linkランプが一定間隔で点滅している

インフラストラクチャ・モードではアクセスポイントまたは無線ルータと接続できていません。アドホック・モードの場合は無線LANアダプタと接続できていません。接続先の機器の電源、ESS ID、WEPなど設定が正しいか確認してください。

●インターネットに接続できない

①TCP/IPプロトコルが設定されているかを確認してください。
〈ネットワーク〉画面でTCP/IPプロトコルが設定されているかを調べてください。見当たらない場合は、TCP/IPプロトコルを追加してください。

②DHCPサーバ機能を使用していない場合は、IPアドレスを手動で割り付けてください。TCP/IPのプロパティにある【IPアドレス】タブで設定します。詳しくはWindows XP⇒26ページ、Windows Me/98⇒36ページの「MEMO」を参照してください。Windows 2000は43ページ「ネットワークの設定例」を参考にしてください。

③TCP/IPプロトコルの設定が正しいかを確認してください。
プロバイダによって、IPアドレスを自動取得する場合と固定IPアドレスを指定する場合があります。プロバイダから提供されるマニュアルで確認の上、正しい設定をおこなってください。

④プロバイダから提供された情報をすべて設定しているかを確認してください。
IPアドレス以外にも、識別情報の指定などが必要なことがあります。プロバイダから提供されるマニュアルで確認の上、正しい設定をおこなってください。

●本製品の設定は正常に終了したが、ネットワークコンピュータを開くと「ネットワークを参照できません。」というエラーが表示される。

①正常にネットワークの設定ができていない可能性があります。もう一度、本製品の設定を確認し、OS側が本製品を正常に認識しているか調べてください。

・Windows XPで本製品が正常に動作しているかを確認する方法
⇒23ページの手順 **5** ~ **6**

・Windows Me/98上で本製品が正常に動作しているかを確認する方法
⇒33ページの手順 **5** ~ **6**

・Windows 2000上で本製品が正常に動作しているかを確認する方法
[コントロールパネル]→[システム]で【ハードウェア】タブ→**デバイスマネージャ** ボタンをクリックします。「デバイスマネージャ」の一覧にある「ネットワークアダプタ」の本製品のアダプタ名をダブルクリックし、本製品のドライバが正常に動作しているかを確認してください。

Windows Me/98環境でのトラブル

●Windows 98で本製品の設定をおこなった場合にCD-ROMを要求されてしまう。

ネットワークの設定に必要なファイルは、弊社提供のドライバの他にWindows 98側で提供されるファイルも含まれています。このような場合は、表示されるメッセージに従って、Windows 98のCD-ROMをドライブにセットし、そのドライブの「WIN98」ディレクトリをパスとして指定してください。

例：CD-ROMドライブがDドライブの場合→D:\WIN98

※Windows 98プリインストール(最初からインストールしてある)の機種に関してはパスの指定をc:\Windows\Options\Cabsに変更してください。インストールできない場合は、コンピュータ本体のメーカーにおたずねください。

- Windows Me/98でネットワークに接続したが、ファイルやプリンタの共有ができない。

ネットワークには接続できて相手側へ入れるようになったが、相手側のドライブやプリンタを使用できないときは次の点を確認してください。

- ①[ネットワークコンピュータ]→[プロパティ]→「ネットワーク構成の一覧」に「Microsoftネットワーク共有サービス」が組み込まれているかを確認してください。
組み込まれていない場合は[ファイルとプリンタの共有]のチェックボックスを有効にして **[OK]** ボタンをクリックしてください。
- ②共有したいフォルダやプリンタに共有設定をおこなっているかを確認してください。共有の方法は次のようにしてください。
 - ・共有したいフォルダやプリンタのアイコンを右クリックしてメニューを表示します。
 - ・共有という項目を選択し、「共有しない」になっている設定を「共有する」に変更して **[OK]** ボタンをクリックしてください。

Windows 2000環境でのトラブル

- ネットワーク設定ができない。

Administrator権限でログオンしていますか。ネットワークの各種設定にはAdministrator権限がないと設定できない項目があります。

- 利用者がWindows 2000をインストールしたコンピュータにアクセスできない。

- ①利用者が、アクセスを許可するユーザとして登録されていますか。このマニュアルの47ページを読んで登録されているか確認してください。
- ②利用者が共有フォルダにアクセスできるように設定していますか。また、アクセス内容を正しく設定していますか。NTFSフォーマットのハードディスクの場合は、さらにセキュリティ設定でも利用者を登録しておく必要があります。

本製品のIPアドレスを知りたいとき

A. Windows XP/2000の場合

コマンドプロンプトを表示し、「ipconfig」を実行してください。

(例)Windows XPでの実行方法

- ①[スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]を選択します。
- ②「>」の後ろでカーソルが減速しますので、キーボードから「ipconfig」と入力し、**[Enter]** キーを押します。
- ③IPアドレス等が表示されます。

```
C:\Documents and Settings\User>ipconfig

Windows IP Configuration

Ethernet adapter ローカル エリア接続:

    Connection-specific DNS Suffix  . : WorkGroup
    IP Address. . . . . : 192.168.1.16
    Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
    Default Gateway . . . . . : 192.168.1.254
```

B. Windows Me/98の場合

- ①[スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択します。
- ②「名前」に「winipcfg」と入力し、**[OK]** ボタンをクリックします。
- ③<IP設定>画面が表示されます。終了するときは、画面右上の **[X]** をクリックします。



- もし、IPアドレス、サブネットマスクなどが正常に取得できていないようであれば、**[すべて書き換え]** ボタンをクリックします。
- IPアドレス自体が取得できない場合は、クライアントが正常にネットワークに接続されていないか、本製品のDHCPサーバ機能が「使用しない」に設定されているなどが原因として考えられます。

PCカードスロットがひとつしかない場合

PCカードスロットがひとつしかない場合、本製品を取り付けるとCD-ROMドライブが使用できません。以下のことに注意してください。

①OSのCD-ROMについて

本製品のドライバのセットアップを始める前に、OSのシステムソフトウェアの内容をハードディスクにコピーしておきます。

Windows 98の場合は、「win98」ディレクトリをハードディスクにコピーしておきます。セットアップ中にOSのCD-ROMを要求されたら、CD-ROMの代わりにハードディスク内の各ディレクトリを指定してください。

②本製品のドライバおよび設定ユーティリティについて

本製品を取り付ける前にセットアッププログラムを実行することで、設定ユーティリティはインストールされます。ドライバについては付属のCD-ROMにある「Driver」フォルダをハードディスクの任意の場所にコピーし、インストール時にドライバの場所を尋ねられたときは、その場所を指定してください。

※ファイルをコピーするときの注意点

Windowsのシステムは標準では一部のファイルが表示されません。CD-ROMの内容を表示したうえで、「ツール」→「フォルダオプション」を開き、「表示」で「すべてのファイルとフォルダを表示する」ように設定してください。

15 サポートサービスについて

Laneed

ラニード製品のサポートサービスについては、下記のラニード・サポートセンターへお電話またはFAXでご連絡ください。サポート情報、製品情報に関しては、FAX情報、インターネットでも提供しております。なお、サポートサービスを受けるためには、必ずユーザ登録をおこなってください。

●ラニード・サポートセンター

TEL : 03-3444-5571 FAX : 03-3444-8205

受付時間：月～金曜日 9:00～12:00 13:00～18:00
(夏期・年末年始特定休業日、祝祭日は除きます)

※FAXによる受信は24時間おこなっております。

●インターネット

<http://www.elecom.co.jp>

●FAX情報サービス

最寄りのサービス情報BOXセンターにお電話ください。
ガイドランスに従って取り出したい情報のBOX番号を指示してください。

メインメニューBOX番号(提供している情報の一覧がFAXされます)

5 5 9 9 0 0

電話番号

東京：03-3940-6000 大阪：06-6455-6000

名古屋：052-453-6000 福岡：092-482-6000

札幌：011-210-6000 仙台：022-268-6000

広島：082-223-6000

●修理の依頼

本製品が故障した場合には、故障した製品と保証書に、故障状況を記入したものを添えてご連絡ください。

保証期間内

まずは、上記のラニード・サポートセンターまで電話またはFAXでご連絡ください。

保証期間外

東京都八王子市安町3-5-2 セキエレクトロニクス株式会社内
 エレコム修理センター
 電話番号 0426-31-0271 FAX番号 0426-31-0272
 受付時間 月曜日～金曜日 9:00～12:00 13:00～17:00
 (ただし、祝祭日および夏期・年末年始特定休業日は除く)
 ※FAXによる受信は24時間おこなっております。

●サポートセンターへお電話される前に

サポートセンターにお電話される前に次の事項を確認してください。

- ・このマニュアルの70ページ「こんなときは」をお読みになりましたか。
 まだ、お読みでない場合は、お電話の前にお読みください。
- ・システムを起動できる場合は、起動した状態でお電話ください。
- ・異常のある製品を取り付けたコンピュータの前から会話が可能な場合は、
 コンピュータの前からお電話をおかけください。実際に操作しながらチェッ
 クできますので、解決しやすくなります。
- ・FAXを送られる場合は、付属の別紙「トラブルシート」に、できるだけ詳
 しい内容をご記入ください。

次のことをご確認ください。**● ネットワーク構成**

使用しているネットワークアダプタ:
 使用しているOS:
 使用しているコンピュータ本体(メーカーおよび型番):
 ネットワークを構成するコンピュータの台数とOSの構成:
 ネットワークを構成するその他の関連機器(HUB、ルータ等) :

● 具体的な現象について

具体的な現象:
 事前にお客様が試みられた事項(あればお伝えください):

基本仕様

Laneed

商品名	11Mbps無線LAN PCカード
製品型番	LD-WL11/PCCS
周波数帯域	2.412～2.4835GHz
伝送方式	DS-SS (直接拡散スペクトラム拡散)方式
伝送速度	11Mbps, 5.5Mbps, 2Mbps, 1Mbps
チャンネル数	14チャンネル
規格	IEEE802.11/IEEE802.11b/ARIB STD-T66/ STDT33
インターフェイス	PCMCIA Type II
伝送距離	11Mbps : 60m(屋内)、100m(屋外) 5.5Mbps : 90m(屋内)、150m(屋外) 2Mbps : 110m(屋内)、180m(屋外) 1Mbps : 120m(屋内)、210m(屋外)
LED	Power : 電源供給、Link : リンクの確立
セキュリティ	ESS ID, WEP 64ビット(40ビット互換)/128ビット
消費電力	3.3V 0.4W(最大)
動作温度	0～55℃
動作湿度	5～95%(結露なきこと)
重量	50g
外形寸法	W55×D113×H6mm
対応機種	PC/AT互換機(DOS/Vマシン)およびNEC PC98-NXシ リーズで3.3V対応のPCMCIA Type IIのPCカードスロッ トを持つ機種(自作機は除く)
対応OS	Windows XP, Windows Me, Windows 98, Windows 2000
付属品	CD-ROMディスク(1枚)、ユーザーズマニュアル、 ユーザ登録カード、保証書

無線LAN PCカード
LD-WL11/PCCS
ユーザーズマニュアル
発行 エレコム株式会社
2002年6月3日 第1版

©2002 ELECOM Corporation. All rights reserved.

Laneed

ELECOM